

行きたくなる学校づくり



「分かる授業」
「できる授業」を
創る



「安心できる場所」
を創る

「児童生徒主体の
活動」を創る

児童生徒主体の活動

<各校実践例>

- 児童生徒会のスローガン作成と啓発
- 児童生徒会のめあての呼び掛け
- いじめ防止標語コンクール、CM制作
- 児童生徒による挨拶運動
- 一人一役制（学校・学年行事）
- 行事ごとに全体目標・個人目標の設定と振り返り（自己決定・自己存在感・共感的人間関係の育成）
- 自分の意見表明の場を設定（達成感・成就感）
- 朝ダンスの開催
- 友達のよいところ探し、伝える場を帰りの会等で設定
- 生活アンケートの活用
- 複数の教員による情報交換
- 相談活動の実施（児童生徒と、保護者と）

分かる授業

<各校実践例>

- 指導力の向上…（授業改善の取組）
 - ・「主体的・対話的で深い学び」への取組
 - ・年間一人一回の授業公開（検討会）
 - ・校内・教科での共同研究の充実
 - ・ICT活用による思考力育成
- ペア・グループ学習で互いの考えを交流、まとめを行うことで「できた・わかった」が実感できる授業を組み立てる。
- 板書の工夫・教室掲示の工夫（算数コーナー）
- 自分の考えの根拠に既習事項を活用
- 学習過程に「振り返り」を入れる。
- ノートづくりの工夫（自分の考えを書く。図、表、友達の考えを取り入れて書く）
- 児童生徒のつまづき等の把握と対応
- 学習計画立案や学習方法のアドバイスにより家庭学習の定着を図る。
 - ・学習時間の上位者を表彰して意欲喚起
 - ・児童の家庭学習ノートのよい例をコピー掲示
- 放課後学習会、長期休業中の学習会
- 朝読書・新聞のコラムを読み感想を書く。
- KGO（基礎学力オリンピック）実施・表彰
- 「学びの森」の活用

安心できる場所

<各校実践例>

- 道徳・学級活動でいじめ防止に関する題材を扱ったり、話し合いを行う。
- 帰りの会などで、友達の頑張りや感謝の気持ちを伝える場面を設定する。
- 二者面談等、教育相談を実施し、相談事や悩みなどを聞く機会を設定している。
- 道徳・学級活動でいじめ防止に関する題材を扱い、いじめ防止の雰囲気醸成する。
- 友達のよいところ探し、伝える場面を設定する。（言葉で、メモ（掲示用）で）
- 「目指す児童・生徒像」の具体の姿を伝え、見られた場合に賞賛する。
- 生活アンケートの活用
- 複数の教員による情報交換
- 校内での情報共有（職員会議等）
- 相談活動の実施（児童生徒、保護者）
- Q-Uの活用
- 「つながりタイム」（二者面談）

不登校への対応のポイント

- [未然防止][初期対応][自立支援]という段階があります。
- 校内ケース会・不登校対策委員会の開催
（校長・教頭・教務・生徒指導・養護教諭・特別支援コーディネーター・担任）
- SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）等、外部機関と連携して対応策を検討します。

<運営例>

- 各学年（担当）から報告(出欠状況、生活面等)
 - ・（継続）改善・課題等、（新規）支援計画
- 質疑、（SCやSSWも入って）
- 今後の目標、対応について共通理解、次回予定
- SSWからの助言（参加しているとき）

<支援例>

- （段階1）1日欠/2週；家庭連絡を取り合い状況確認と対策
- （段階2）1日欠/週；家庭訪問(不安・要望)、信頼関係、ケース会
- （段階3）7日欠/月；家庭訪問,教育相談,個別の支援計画(SC,SSW連携)
- （段階4）ほとんど欠；レベル3に加えて、外部関係機関（心のケアハウス）、専門機関と連携し、情報共有と対応策の検討

いじめ防止へのポイント

○小さな変化を見逃さない。

- ・授業や休み時間の子供の表情や態度
- ・毎月の生活アンケートによる点検
- ・Q-Uテストを活用した学級経営改善と個別対応
- ・教育相談の活用（二者面談）

○児童生徒による取組

- ・いじめ防止CMコンクールへの取組
- ・いじめ防止標語コンクールの開催

第5回みやぎ小・中学生いじめゼロCMコンクール

「心までは省略しない」

制作
山元町立山下中学校生徒会

関係機関とその連絡先

- ・ SSW＝教育総務課（窓口；各校の教頭先生）
- ・ 山元町ケアハウスMIRAI（窓口；各校の教頭先生）

各校生徒指導担当者で、これらの取組を検証し、より適切な取組に向けて改善を図っていきます。